



キクにキンコン

P. グリーン

天然ミネラル

かわらばん 号外
H31年3月号

ホームページもご覧ください。
<http://uchida-chemical.com>

夏の暑さに負けない土・肥料・苗つくりの問題点

近年の夏の暑さは厳しさを増すばかりです。とりわけ昨年の暑さは6月下旬より30度を越える日が続き(関東地方では)「枯れた」「まるで生育が悪い」などなど思わぬ問題が多発しました。

しかし、すべての愛好家の皆様がこの様になったのではなく多くの方が順調に生育し優秀花を咲かせています。

暑さだけが原因ではなさそうです。

では、この大きな差は“どこにあるのか”ココを見直せば、今年は

優秀花が期待できるはずです。

失敗の多くは暑さのみで発生しているものではなく、土つくりや肥料の使い方に無理がある場合がほとんどです。

その原因は

「土つくりに関するもの」

「肥料の選び方や使い方に関するもの」

「苗つくりに関するもの」などに分類されます。

土に関する問題点

腐葉土つくりにおける米ヌカの入れ過ぎ(カニガラ等を含む)さらには培養土配合時の乾燥肥料の混入などは、結果的にチッ素分を多く含んだ培養土ができてしまいます。

このチッ素分は発根を悪くしたり、毛細根の発達を阻害したり根作りをしにくくしています。

根張りが不充分になるとリン酸の吸収が悪くなり、チッ素の消化

不良が起き、その結果、肥料残りが発生し、「葉が巻き込んだり」「花卉の乱れや花が大きくなりすぎない」の原因となります。

さらに気温が高くなると培養土の保持しているチッ素が急激に溶け出す為に培養土中の肥料濃度を高めてしまいます。

その結果チッ素過剰の傾向が益々強く現れてしまいます。

肥料に関する問題点

乾燥肥料で大きな問題となるのは未発酵の有機肥料の使用です。乾燥肥料の位置づけで売られているこれらの商品は、鉢の中段に入れると水を掛けた時から鉢の中で発酵が始まり、発酵ガス障害により「根いたみ、根ぐされ」が発生します。

一度「根ぐされ」が発生すると取り返しのつかない生育不良におちいる為に、乾燥肥料は必ず発酵したものを使用することが大切です。(根いたみ・初期の根ぐされは天然ミネラルで改善できます)乾燥肥料購入に当たっては充分な注意が必要です。

化学肥料の問題点は人為的に配合されたチッ素・リン酸・カリ等々限られた肥料成分しか含まれていない点です。

これらの成分は溶け出すのが早く、気温や水分などにより大きく変化することです。

その為、夏の暑さで気温が上昇すると肥料成分(チッ素等)が急激に溶け出し、土中肥料濃度が高まります。その結果根が耐えられなくなり「根いたみ・根ぐされ」が発生します。

一般的にこの状態になると、生育は急に悪化します。追肥をし挽回を図ろうとすると、土中肥料濃度は、高くなるだけで状態は

さらに悪くなり「一年の菊つくりを棒に振る」大問題となります。こんな時は「エストール」で肥料を除去し「天然ミネラル」を使用し、根の再生を促します。

一方生育にも大きな問題が起きます。「葉がドス黒くなる」「葉が巻き込む」「葉がタレ下がる」などまた「イキイキと育たない」など健全な生育はしません。

この症状は花への悪影響も大きく「花卉の伸びが悪く花が大きくなりすぎない」「花卉が硬く花卉の乱れがでる」「花の色ツヤが悪い」などの問題が発生し“気品ある雄大な花”にはなりません。この原因は化学肥料にはアミノ酸、ビタミン、ミネラル、酵素、植物ホルモン等有機由来の成分が欠落している為です。

この問題を避ける為には「旧来から売られている化学肥料を主体とする菊の肥料やこれに類する肥料から、発酵した乾燥肥料及びアミノ酸を主体とする液肥に変更することで解決します。

これは菊つくりの技術の問題ではなく肥料の選び方の問題であり、その気になれば一気に解決できます。

苗つくりの問題点

苗つくりは昔から「苗半作」などと言われているように今後の生育を占う大きな要素を持っています。

正しくその通りであり、苗つくりが上手にできた場合は暑さの影響を受けているとは思えない生育をしています。

サシ芽からポットや小鉢に鉢上げする際、充分な根量のある苗と5~6本しか発根しない苗とでは生長に大きな差が生まれます。根量が豊かな苗は活着が早く(根づくのが早く)初期生育が非常に早く、定植後の根の伸びもよく、極めて充実した根張りとなり、旺盛な生育をします。

根量不足の苗や発根の不揃いの苗を無理矢理肥料を与え、挽回しようとしても鉢中の肥料濃度が高くなり、根の伸長や毛細根の発達が悪くなるばかりか「根いたみ」を起こす場合もあり、生育不良の大きな原因のひとつになっています。

これらの問題を事前に防ぐ為には、親株の管理を含めた充実したサシ穂を育てることが最重要です。

さらにサシ穂は多めに挿し、優良な苗を厳選して小鉢やポットに鉢上げすることが大切です。

なお育苗期の肥料管理は、リン酸を主にチッ素は極力ひかえた「リン酸中心の肥料の与え方」が生長力の強い苗ができる可能性が高いと考えます。「キクにキンコン」「Pグリーン」の使用で改善できます。

この事例は近年の夏に多発した生育不良です。

これ以外にも開花遅れ・チッ素過剰、肥料残りなど多くの問題がありますが、今回は菊つくりを根底から狂わせる重大な問題とその反省から対策用の新資材をご案内させていただきます。

リン酸＝23%
カリ＝7%
その他、マンガン・
鉄・銅・亜鉛・
モリブデン 他

P.グリーン

超速効性 液状リン酸肥料＝肥料調整剤

ミネラル配合で効きめ倍増 他社製品とは一線を画す効きめ

- サシ芽の鉢上げ直前のドブ漬け又は灌水使用により、リン酸吸収力の強い体質ができることでチッ素の吸収が高まりチッ素過剰になりにくく健全かつ力強い生育をします。
- 秋の肥料調整や生長期に葉色が黒くなる、葉タレ下がるなどチッ素過剰になった時、チッ素を素早く消化させ健全な生育に改善する。
- 根・芽先・花芽など生長点の細胞分裂や光合成を活発にし旺盛な生育を促します。



600g 入り
本体価格 ￥3,300

お試し特価
¥2,950

特徴

- リン酸成分を高単位に配合した超速効性の液状リン酸肥料です。
- 茎葉にチッ素がたまり葉色が黒くなったり、タレ下がるなど、チッ素過剰症をすみやかに改善します。
- 日照不足の軟弱徒長を改善し、健全生育を促す。
- サシ芽の鉢上げ直前にタツプリとリン酸を吸わせることで、リン酸吸収力の強い体質ができ、生育後半までその効果は続きます。その結果、無駄なく効率よくチッ素の吸収ができ、肥料残りや、チッ素過剰が起きにくくなります。

秋の肥料調整、生長期のチッ素過剰症の改善に抜群の効果

こんな時にこんな使い方

- | | |
|--|---------------------|
| ※ 1. サシ芽の鉢上げ前 鉢上げ2～3日前
育苗期、ポット又は小鉢で1～2回 | 600～800倍
タツプリと灌水 |
| 2. 生長期に於けるチッ素過剰の解消 | 500～600倍で |
| 3. 秋の肥料調整 | 500～600倍で |
| 4. 花芽分化促進 | 500～600倍で |
| 5. 徒長防止 | 500～600倍で |

※ 1 以下は葉面散布又は灌水で使用できます。(おすすめは葉面散布)

※ 草勢を見ながら
適宜お使い下さい。

(注) アルカリ性の肥料・農薬とは混用しないで下さい。
使用目的以外の使い方はしないで下さい。
強日照時や高温時の葉面散布はしないで下さい。



1000 倍で芽先より灌水。
チッ素が消化され葉が立ってくるのが
確認できる。



苗つくりのココで使うと効果的

ワンポイント
アドバイス

- サシ芽のポット上げ・小鉢上げ 2～3日前に1回
…… 600～800倍でタツプリ灌水
- ポット・小鉢の育苗期に1～2回
…… 600～800倍でタツプリ灌水

キクにキンコン

- 菌根菌とは土中に菌糸を伸ばし、ネットワークを作り、根の届かない土中から、リン酸・ミネラル・水分などを集め、根に供給する反面、菌根菌の必要な栄養分は根から供給を受け、“持ちつ持たれつ”の相互援助の関係を作ります。
- 培養土の過湿、乾燥、気温の変化など環境の悪い時に効果的に助成する働きがあります。
- 有益微生物と同時に培養土に増殖することで発根促進、毛細根の発達が良くなり、草勢強化・健全生育などに相乗的に働きます。近年の暑さや天候変動の激しい時に強力な助成が期待できます。



500g 入り
本体価格 ¥3,100
お試し特価 ¥2,800

特 徴

- 菌根菌と細菌、放線菌、酵母など有益微生物を配合してあります。
- サシ芽の発根促進、根量の増加、立枯れ防止、サシ芽の歩止まりが向上します。
- リン酸・ミネラル・水分の吸収が高まり、体内酵素の活性化を促し、体質強化と肥料の吸収を高め、ひかえめの肥料でよく育ちます。
- 菌根菌と有益微生物の効果で病原菌に対する抵抗性が増し、過湿・乾燥・高温などの環境変化に対する順応性が高まります。

※正常な土づくりや肥料管理が前提です。

生育に現れる効果

- サシ芽の発根が早まる。根量が多くなる。活着が早くなるなど生長力旺盛な苗づくりができます。
- リン酸・ミネラル等の吸収が高まりチッ素の吸収が促進され肥料残りが起きにくく、健全で力強い生育をします。
- 過湿・乾燥・高温など環境変化に強くなり安定した生育をします。
- 病原菌の抑制効果が高まり、被害を受けにくくなります。

こんな時にこんな使い方

- サシ芽のポット上げ(又は鉢上げ)時に株当たり3～4グラム(小サジ1杯)を根にまぶすか、培養土に根が接する部分に施し根付けてください。
- ポット・小鉢上げ用の培養土に混ぜて使用する場合は1リットルの培養土に15～20グラムを平均に混合して下さい。(3～5日前に水分を与え混入します)
- 自家製サシ芽用土の場合1リットルに対し、15～20グラムの割合で平均に混ぜ合わせ、十分に水をしみ込ませて下さい。

(注) 混入後、3日以内にサシ芽をして下さい。キンコン菌の根との共生生育力が2～3週間をピークに少しずつ下がる為です。ポット上げ時に再度使用することが確実

※当社サシ芽用土は有益微生物は配合済みである為サシ芽のポット上げ(小鉢上げ)に使用して下さい。

※保管は直射日光を避け、湿度の少ない場所に保管して下さい。

※人畜無害の商品ですが、誤食には十分に注意して下さい。目的以外には使用しないで下さい。

苗づくりのココで使うと効果的

- ポット上げ又は小鉢上げ時に、根にまぶして鉢上げをする。根に直接接触する使い方が効果的。

ワンポイント
アドバイス

天然ミネラル

- 岩石から抽出した正真正銘のミネラルを濃縮した活性液です。
- 根いたみ・根ぐされの回復、根ぐされ予防及び暑さによる
根の活力低下の回復に効果的です。
- 不足したミネラルを補給することで体内酵素が活性化し
発根が良くなり毛細根が増えます。
- 芽先・根・花芽など生長点の細胞分裂を活発にし生育肥大を促します。



500g 入り

本体価格 ￥3,100

お試し特価
￥2,800

特 徴

- 成分は岩石から特殊抽出したカルシウム・鉄・亜鉛・モリブデン・マンガン・銅など 40 数種類の天然ミネラルです。
- 天然ミネラルは植物の芽先・根・花芽など生長点の細胞分裂を活発にし、生育・肥大を旺盛にします。
また根の再生を促し、根いたみの回復を早めます。
- 根に吸われ培養土の消耗したミネラル分を補給することで植物体内酵素が充実し、草勢が高まり発根や生育が非常に良くなります。
- サシ芽後に灌水使用することで体内酵素の活性化により発根が早くなり充実した根つくりとなります。

天然ミネラル使用による、植物体内酵素の

活性化は多方面にわたり、優れた効果をもたらします。



老化しにくい見事な根張り

11月19日 撮影

使い方のポイント

- 根勢強化・活力向上で暑さを乗り切る
800倍で7～10日毎に灌水又は葉面散布。
- サシ芽の水上げ
1000倍で透水源の2000～30000倍の併用が効果的です。
- その他育苗期～開花期の根勢強化
1000倍で7～10日毎に灌水又は葉面散布

(注) ● アルカリ性の肥料及び農薬とは混用しないで下さい。
● 強日照時や高温時の葉面散布はしないで下さい。
● 使用目的以外の使い方はしないで下さい。

お申込み・お問い合わせは

ウチダケミカルコーポレーション

Tel.029-869-1777 Fax.029-869-1666

〒300-4204 茨城県つくば市作谷1711-12 郵便振替 00820-6-96628